

過去「けり」体

昔、田舎わたらひしける人の子ども、井のもとに

サ変・用

下二・用 過去「けり」体

出でて遊びけるを、大人になりにければ、男も女も

四段・用 接続

四段・用 接続

四段・用(複合動詞) 過去「けり」已

恥ぢかしてありけれど、男はこの女をこそ得め

ラ変・用 接続

係助 下二・未

推量「む」已

と思ふ。女は、この男をと思ひつつ、親のおはすれ

四段・終

四段・用

下二・已

四段・未

過去「けり」体

ども、聞かだむありける。さて、この隣の男の

接続

接続 係助 ラ変・用

サ変・用

もとより、かくなむ、

副詞 係助

格助 過去「ぎ」体

筒井筒 井筒にかけし まろが丈

下二・用

格助

完了「ぬ」用 推定「らし」終 打消「ず」体

過ぎにけらしな 妹見ざるまに

上二・用 過去「けり」体 終助

上二・未

女、返し

過去「ぎ」体

完了「ぬ」終

くらべこし 振り分け髪も 肩過ぎぬ

カ変・未(複動)

係助 上二・用

打消「ず」用

係助 推量「べし」体

君ならずして たれか上ぐべき

断定「なり」未

下二・終

など言ひ言ひて、つひに本意のごとくあひにけり。

四段・用 四段・用

副詞 比況「ごとし」用 完了「ぬ」用

さて、年ごろ経るほどに、女、親なく、頼りなくなる

下二・体

格助

形容詞・ク活用・用 四段・体

ままたにもろともと言ふかひなくてあらむやは

格助

副詞

形容詞・ク活用・用 ラ変・未 係助

意思「む」終

とて、河内の国、高安の郡に、行き通ふ所出で来

格助

四段・体(複動)

力変・用

過去「けり」終 過去「けり」已

にけり。さりけれど、このもとの女、あしと

完了「ぬ」用 ラ変・用

接続

形容詞・シク活用・終

存続「り」体

思へるけしきもなくて、出だしやりければ、男、

四段・已

形容詞・ク活用・用 四段・用(複動)

接続

異心ありてかかると、思ひ疑ひて、前裁

ことごとく

断定「なり」用 推量「む」体

ラ変・用 ラ変・未 係助 ラ変・未 四段・用(複動)

この女、いとよう化粧じて、うちながめて、

格助

の中に隠れて、河内へいぬる顔にて見れば、

上二・用(複動)

ナ変・体

格助

接続

この女、いとよう化粧じて、うちながめて、

サ変・用

形容詞・ク活用・用

下二・用

昔、田舎で暮らしていた人の子供が、井戸の周りに

出て遊んでいたが、成長したので男も女もお互いに

恥ぢかしがってはいたけれど、男はこの女をぜひ妻

にしたいと思う。女は、この男をぜひ夫にしたいと

思っており、親が他の男と結婚させようとする

けれども、聞き入れないでいた。そうしているうち

に、この隣の男の

もとからこのような歌が届いた。

(子供のころ)井戸の枠で背比べをした私の背丈は

井戸の枠(井筒)を越えてしまったようです。

あなたと会わないでいる間に。

女の返歌は

あなたと比べていた私の振り分け髪も、肩を過ぎる

ほど長くなってしまいました。

あなた以外に(誰のために)髪を上げましょうか。

などとお互いに歌を送りあって、とうとうかねて

からの望みの通り結婚したのだった。

それから数年経つうちに、女は親が死んで

(生活の)よりどころがなくなったので、

一緒に貧しく暮らしていられようか、

とあって、河内の国、高安の郡に、通う(女の)

所ができてしまった。

そのようにあったけれども、このもとの女は、

不快に思っている様子もなくて、(男を河内の国

に)送り出したので、男は、

他の男を想っているのこのようにするのか、と

思い疑って、

庭の植え込みの中に隠れていて、河内の国に

行く振りをしてみると、

この女はたいへん美しく化粧をして、物思いに

ふけて、